

## 第13回唐津市青少年意見発表大会に参加して☆

11月9日（土）に唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」で意見発表大会が開催されました。唐津市内の小中学生17名（小学校8校、中学校8校）が自分の体験や意見を発表しました。

本校からも中学生の中学2年生女子が『「当たり前」に感謝』というタイトルで意見発表をしました。内容は、今あるものを失った時に当たり前の有難さに気づくこと。これを能登半島の地震を通して考えています。また、今の自分があるのは誰のおかげなのかということを考えながら想像力を膨らませようと発表しました。

今回の小中学生の意見発表を聞いて、しっかりと社会の情勢やこれまでの歴史を見つめ自分の頭でよく考えてくれていると感じさせられました。一人一人が自分の夢の実現に向けて頑張ってくれることと思います。こうした主張ができる子供たちが育ったのも、家庭や地域の教育力のおかげだと思います。

今回の意見発表会に参加をして、地域や家庭教育の高さを感じたとともに、以前に目にした詩が思い起こされました。アメリカの教育家ドロシー・ロー・ノルトさんの「子は親の鏡」という詩です。この詩は、子どもが育つ魔法の言葉という本にありますので、目にされた保護者の方も多いと思います。本校の保護者・地域の方々はこの詩のような立場に立って子育てをなさっておられるのだらうと感じたとともに、学校においても、「親や家庭」を「学校」に置き換えて考えると、大いに参考になりそうです。ご存じの方も多いとは思いますが紹介します。

### 子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言っていると、子どもは、みじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みあんな子になる  
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つけてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもにも公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、  
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

今回の唐津市青少年意見発表大会で、唐津市内の小中学生の意見発表を聞くことができ、改めて日頃の私たち大人の日頃の振る舞いを見直していかなければならない部分もあると教えられた気がします。発表してくれた小中学生の主張を大まかにではありますが、以下に紹介します。

- 挨拶は私たちを幸せにしてくれるもの。これを自分だけに留めずに、周辺の人にも広げたい。
- 話ができない動物の心を理解できるようになって、将来は動物に関わる仕事につきたい。
- スポーツは平和につながるという考えで、空手を通して礼儀の大切さを学んだ。
- 勉強することは、新たな事への挑戦だけでなく、今をより良くしようとする態度を身につけること。
- 戦争をなくすため、違いを受け入れるだけでなく、違いを歓迎し、良い事は友達に勧め、広げよう。
- 宿題のメリット・デメリットについてアンケートを実施した結果を基に、勉強の大切さを考えた。
- 習っている相撲について歴史や所作について述べ、そこで学んだ礼儀の大切さについて考えた。
- 人は便利を求めるが、不便の中にも毎日何かしらの幸せを感じられることを島生活で気づいた。
- 生徒会活動の引継にあたり、「時間を守ること、話を聞くこと、校歌をしっかりと歌うこと」の凡事徹底だけでなく、友達の声を大切にしながら生徒会活動に取り組んできた。
- 繋がるをもっと便利にしたいと考え技術は発展してきたが、人は言葉という便利なツールを使いこなすことで人と人との繋がりをもっとよりよくできる。
- 大谷翔平選手の曼陀羅チャートを参考にして考え、運は向こうからやってくるものではなく、自分で作り育てるもの、自分磨きの取組を紹介。
- 病院での職場体験学習から、将来患者の不安を取り除くことができる看護師になるとの思いを紹介。
- 現在の日本は平和な日々を過ごしているが、これは 79 年前私たちの祖先が命を犠牲にして成り立っていることを改めて考えさせられたことを紹介。
- インターネットの害について、SNS における誹謗中傷による社会的な事件や自分の経験を通して、匿名の発言に振りまわされずに生きていくことを伝えた。
- 広島修学旅行の経験を通して感じた戦争の悲惨さや平和の大切さを紹介。

## 能登半島豪雨災害復興支援義援金を届けました

能登半島豪雨災害復興支援の募金活動に、唐津地区の中学校生徒会で募金活動に取り組み、地域の皆様、観光客の皆様から寄せられた義援金を 11 月 8 日（金）に唐津市社会福祉協議会に届けました。唐津地区の中学校・義務教育学校から 50 万円以上もの義援金が集まりました。本校からも生徒会長が義援金を社会福祉協議会会長に手渡し、厳木中学校の募金活動の様子やその時に感じた思いを伝えました。

この様子は、テレビのニュースでも取り上げられました。



7 校の生徒会代表者による寄贈式の様子



生徒会長による義援金の寄贈